

めぐみ

2021 年 3月号

学校法人 聖公会北関東学園
認定こども園
初雁幼稚園
〒350-0057 川越市大手町 8-5
Tel.222-5385 Fax 228-5010
<http://hatsukari-kg.jp>

初雁幼稚園 120 周年ありがとう

名誉園長 野澤 達也

2月13日に行われた「初雁幼稚園創立120周年のつどい」が大勢の参加者と共に盛会のうちに行了れたことをとてもうれしく思います。園児たちと一緒に伝統のイエスキリスト聖誕劇（クリスマスページェント）に私も加えてもらい、とても感激しました。20年前の創立100周年もちょうど同じ会場で行っていました。

創立65周年を祝った1965年には前の園舎が記念として完成しました。その後80年、90年、100年と記念の年にはいろいろなイベントも行いました。私が最初に関わったのが80周年の祝いでした。当時は園長ではなく、幼稚園委員として企画に関わったのですが、メインの会場は川越小学校の講堂をお借りし、盛大に80周年を祝いました。「およげたいやきくん」で一世を風靡した子門真人（しもんまさと）さんがかけつけてくれたのです。子門さんのブームは何年か前まででしたが、さすがに大勢の観客をひきつけ、大変な盛り上がりでした。その時に小学校のステージで園児たちのページェントが行われました。

創立80年、90年、100年では記念の新聞を制作し、市内に新聞折り込みなどをして幼稚園の存在をアピールしました。90年には私は園長として企画の中心にいましたが、今でも記憶にあるのが、新聞の記事の取材で卒園生の中の有名人にインタビューしたことです。そのひとりには俳優の市村正親さんです。公演中の都内の劇場の楽屋を訪ね、幼稚園のころの思い出を語ってもらいました。市村さんは幼稚園の近くに生家があり、近所の子どもたちと一緒に通ったといいました。気が付いたらみんな幼稚園に行っていて、自分だけが取り残されていてあわてて1年間の保育で入ったそうです。幼稚園のブランコで遊んでいて、オデコに傷をつけ、今でも残っているという笑いながらの思い出でした。次に訪ねたのが当時 JR 東日本の初代社長であった住田正二（すみたしょうじ）さんです。国鉄が民営化し7つに分割された少し後でした。住田さんは1922年の生まれ28回の卒園生です。大変多忙な方で、なかなかインタビューなどできない方でしたが、初雁幼稚園のことなので快く応じてくださったのです。当時の保護者会会長の方と一緒に東京駅そばの本社ビルで幼稚園時代のことをお尋ねしました。驚くほどの記憶力で当時の様子、通っていた友だちのこと、など嬉々として語ってくださいました。日ごろは難しい経済問題や国鉄民営化後の諸問題とは別世界のことなので話が弾んでいたようでした。このインタビューを企画くださったのが今年1月に逝去された松村祐二（当時の幼稚園委員長）さんで、当時日本経済新聞社の幹部をされていたので、その人脈から応じてくださったのです。

そして100周年、今回と同じやまぶき会館のステージでの園児たちのページェント。その時は卒園生の希望者も出演、今回の120年とほぼ同じ台本と音楽です。今回のステージは現園児だけでしたか、熱演に心うたれた方も多かったでしょう。コロナ禍のなかでもこんなにがんばりました。皆様ありがとうございます。

今月の保育目標と予定

☆保育目標☆

今月のテーマ
「やくそくしょう」

目 標

- 安心と希望を持って歩みを進める
- 神様の見守りの中で、大きくなったことを感謝する

学年別のねがい

- (1 歳) 自分でできることが嬉しい
- (2・満3 歳) 興味が広がる
- (年少組) 大きくなることに憧れ、期待を膨らませる
- (年中組) 進級への期待が高まり、意欲的に過ごす
- (年長組) 就学を期待し、希望を持って歩む

ひ と こ と

就学に向けて、期待と不安を抱きつつも、自分たちのやりたいことを存分に楽しみ自分たちで考えて行動するという大きな背中を見せてくれているすみれ組。「今度、すみれ組になるんだ」「黄色バッチ、赤バッチになるんだよ」と進級への思いを膨らませているたんぽぽ、ちゅうりっぷ、ピンクちゅうりっぷ組。園庭で遊ぶことが増えて、たくさんの刺激を受けながらのびのびと行動を広げているもも組。一步一步を自分の力で歩み、自分でやることを喜び新たな一歩につながるつくし組。それぞれが今、羽ばたき始めたその思いや姿を大切に過ごしていきます。

今月の聖歌

「きゅうこんのなかには」

今月の歌

「せかいじゅうのこどもたちが」

★予定★

日	曜	行事などの予定
1	月	
2	火	ちらし寿司会食
3	水	入園準備会（3号）
4	木	おわかれ会（年長保護者のみ）
5	金	全体礼拝
6	土	就労家庭保育実施日 園庭木剪定予定
7	日	
8	月	
9	火	
10	水	
11	木	
12	金	卒園式予行
13	土	就労家庭保育実施日
14	日	学園理事会 信徒総会
15	月	
16	火	
17	水	
18	木	修了式 期末短縮（11時30分降園）
19	金	第120回卒園式（幼児部預かりなし）
20	土	春分の日
21	日	
22	月	1号認定春休み
23	火	
24	水	
25	木	
26	金	全体礼拝
27	土	就労家庭保育実施日
28	日	
29	月	
30	火	
31	水	
4月		
3	土	第121回入園式
9	金	進級式



チャプレンのページ



十二使徒

「わたしがあなたがたを選んだ」

ヨハネによる福音書 第15章 16節

イエス様には 12 人の弟子（使徒）がいました。イエス様の宣教活動を、生活を共にしながら助けた人たちです。

マタイによる福音書の記述によると、12 人の名前は、まずペトロと呼ばれるシモンとその弟アンデレ、ゼベダイの子ヤコブとその弟ヨハネ、フィリポとバルトロマイ、トマスと徴税人のマタイ、アルファイの子ヤコブとタダイ、熱心党のシモン、それにイエス様を裏切ったイスカリオテのユダとなっています。

この 12 人の中で、イエス様に特に重んじられたのが、ペトロ・ゼベダイの子ヤコブ、ヨハネの 3 人でした。この人たちはいずれもガリラヤ湖の漁師で、学校もなかった当時のこと、自分自身で字を読むことができず、人を通してしか神様の教えに触れられませんでした。イエス様はあえてこの人たちを最も重んじました。

彼らが人間的に模範的だったのかということそうでもありません。ペトロは使徒の中で最年長者であり、皆のまとめ役でしたが、この世的な利益を時々イエス様に求めています。ゼベダイの子ヤコブとヨハネは腹を立てて怒ることが多かったようで、イエス様からボアネルゲス（雷の子）との不名誉なニックネームをつけられています。

そのような彼らがなぜ最も重んじられたのか、それは人間的評価ではなく、今その時だけのことでなく、生涯を通して神様に従う人たちだったからです。

ペトロは最後、逆さ十字架につけられて殉教しました。ゼベダイの子ヤコブは 12 使徒の中で最も早く、殉教することになったと使徒言行録に記されています。ヨハネは 12 使徒の中で唯一殉教しないで天命を全うし、晩年にヨハネによる福音書を記したとされています。

トマスはイエス様が復活した時、手の釘跡を見て自分の指を入れてみなければ信じないと言うほど、疑い深い人でした。また徴税人のマタイはユダヤの国を属州支配していたローマ帝国への税金を集める人で、自分の国の人たちからとても嫌われていたにもかかわらず、イエス様はマタイを弟子としました。熱心党のシモンは、ユダヤを抑圧するローマ帝国に対して過激な活動を行っていました。ローマの手先であったマタイと、反ローマの急先鋒だったシモンが同じ弟子として生活を共にしていたというのは本当に不思議なことです。イエス様の宣教活動のために、二人とも心と力を合わせて働いたのです。

最後に、イエス様が十字架に架ける手助けをしたイスカリオテのユダが弟子に入っているは本当に驚きです。

人間は皆違います。神様はその違いをそれぞれが大切にして、共に力と心を合わせるのをしっかり学ぶよう私たちに語りかけています。子どもたちはもちろん、子育てに励む私たちもよく覚えておきたい 12 使徒たちです。

（チャプレン 鈴木 伸明）

クラスまの窓



つくし組

お兄さん、お姉さんになっていく姿

今年に入ってから日に日に成長していくつくし組。絵本の内容を覚え、自分なりの言葉で友だちや保育者に読み聞かせをしています。数字に興味を持ち、見つけるたびに嬉しさのあまりに大きな声でみんなに伝えています。家での出来事、散歩で通った時に何を見たかを一生懸命にお話をしています。目を閉じ、両手をギュッと握り「アーメン」とお祈りが上手になりました。そして一番大きな成長が子どもたち同士の絆です。お休みの子がいると「なんで？」と必ず聞いてくるので朝の会で「〇ちゃんはね、～でお休みだって。明日は来れるといいね」と伝え、「お祈りしなくちゃね！」や「アーメン」と子どもたちの方から伝えてきます。そして次の日にお休みの友だちが登園してきた時には拍手して喜びを表現したり、「〇ちゃん元気になったね」と会えた嬉しさでお互いに大喜び!!その光景はいつも温かい気持ちにしてくれる1コマです。

今年度はコロナで自粛期間がありいつもより一緒に過ごす時間が少なかったのですが、いつもニコニコで登園してくる子どもたちの笑顔を見られるのもあと少し。残りの時間も成長とともに、つくし組生活を満喫したいと思います♡

もも組

まるでピクニック!!

寒さも残りつつ、最近は暖かく過ごしやすい日も増えてきたように思います。暖かい日は室内より外に出たくなりますよね。そこで、もも組はいつも保育室で食べていた給食を環境を変えてウッドデッキで食べるようになりました。幼児部が天気の良い日にウッドデッキやレジャーシートを敷いてお弁当を食べている姿をいつも保育室から眺めて給食を食べていたので、ウッドデッキでの給食にみんな大賛成!!開放的な場所、見渡せば幼児の賑やかな声が飛び交う空間、お兄さんお姉さんの輪の中に入って食べている気分になりニコニコ笑顔が止まりません。ウッドデッキで給食を食べたことを境に、主活動が終わると「今日もお外で食べよ」「着替えて机出さない」とピクニックに出掛けるかのようにワクワクして身支度や準備をせさせと頑張る6人。給食前のお祈りやお弁当の歌も幼児部の姿を見て「私たちも大きな声出して歌おう」「負けないぞ!」と一生懸命覚えて唱えています。6人で食べる給食も楽しいですが、やはり大人数で食べるともっともっと美味しく楽しいですね!

ちゅうりっぷ組

入園当初とは確実に違うみんなの姿



2月に入って、ちゅうりっぷ組のみんなの成長をとても感じています。氷鬼とおにごっこ、どっちを先にやるかで揉めている時「先に〇くんがやりたい方がいいよ」と譲ってあげる子、悲しい表情の子がいたときにはそっと側にいてあげる子、「お当番めくってないよ!」と担任がすっかり忘れていたことを教えてくれる子、お兄さんお姉さんを真似て「リング」での鬼決めに挑戦する子、「分かっているけどやーらない!」という姿を見せる子、帰りの会で忘れ物がないようにコ

ップや水筒を届ける子…。ここに書き切れないくらい、様々な場面で様々な姿を見せています。

子どもたちにとっては初めてがたくさんあった1年だと思いますが、ドキドキしながらも温かい周りの友だちや先生たちに見守られながらそのままの自分を出し、受け入れてもらえる環境の中で、少しずつできることが増えてきました。それが自信に繋がり、友だちに教えてあげたり他のことにも挑戦したり！いろいろなことを経験し乗り越えた今、入園当初とは確実に違うみんなの姿があります。その力を来年もたくさん発揮してね♪1年間ありがとう♡

たんぽぽ組

新しい気づき…大きくなった証

2月に入り、すみれ組が行う動物の世話「うさぎ・鳥・金魚当番」の引き継ぎが始まりました。エプロンと三角巾を着けながらも、まだ右も左も分からないたんぽぽ組に、すみれ組のお兄さんお姉さんが隣について、一から優しく教えてくれます。ほうきの持ち方から包丁まで使います。硬いにんじんを一生懸命カットしていきます。自分が使ったエプロンと三角巾も自分でゴジゴシ綺麗に洗って干します。午前中の自由遊びの時間を目一杯使って当番を終えました。

何もかもが初めてだらけの経験。「すみれ組って、僕たちが遊んでいる時いつもこんなことしてくれていたんだね」と新しい気づきになりました。そこに気づいたのは、大きくなった証。「これからは僕たちがやっていくのだ」というドキドキと期待感が生まれました。すみれ組の大きさを感じた日。そこに一步踏み出したみんな。ちょっとずつ、自分のペースで大きくなあれ！

すみれ組

いつまでもみんなの心の中に

2月になり、子どもたちと相談をして「やりたいことカレンダー」を始めることになりました。これは、すみれ組のみんなでやりたい遊びを一人一つ書き、それを毎日カレンダーのようにめくりながら順番に行うものです。ルールは①すみれ組の全員でやること、②自分が書いたのが出たら、リーダーになって進めることの2つ。毎回リーダーが、いつやるのか、どこに集合するのかを伝えてくれます。けれど、リーダーの力だけではどうにもなりません。リーダーがどんなに一生懸命に伝えても、周りの子の協力がなければ、みんなに伝わりません。それが分かっているのか、みんなで相談した時に、「リーダーはやりたくない」という声も上がりました。その思いを伝え、どうしたらできそうかを考え、協力しないと楽しい時間は過ごせないと感じました。リーダーが「集合」といった声が聞こえれば、周りにいる子に伝え、あっという間に集まります。リーダーがルールを伝えれば、同じように周りの子に伝え共有します。もうすぐそれぞれの小学校へと巣立って行くすみれ組。クラス一丸となって過ごすこの時間が、思い出となり、いつまでもみんなの心の中にあってほしいなと思います。



今月の聖書のおはなし

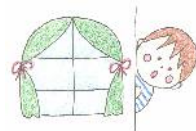


☆ 3月5日「ほうとう息子のたとえ」

ルカによる福音書 15:11～32

ある人に二人の息子がいました。弟の方が父親に「わたしが頂くことになっている財産の分け前をください」と言うと、父親は財産を二人に分けてやりました。弟はもらった財産を全てお金に換えて、遠い国へ旅立ち、そこで放蕩の限りを尽くしました。全て使い果たしたとき、ひどい飢饉が起きました。弟はある人のところに身を寄せ、畑で豚の世話をしましたが、食べ物を与える人は誰もいませんでした。そこで弟は我に返りました。「父のところでは、大勢の雇い人に、有り余るほどのパンがある。もう息子と呼ばれる資格はないから、雇い人の一人にしてもらおう」と考え、父親のもとへ行きました。父親はまだ遠く離れていたけれど、息子を見つけ、走り寄って抱きしめました。さらに、父親は、息子に上等の服を着させ、子牛を屠らせ、祝宴を始めるよう言いました。「死んだも同然の息子が生き返り、いなくなったと思った息子が現れたのだから」と、大層喜びました。

わが家のまど



(203) 家族みんなでキッチンに



2学期からお助け先生としてお世話になってます。去年まで初雁ママでした。ちょっと自己紹介を。我が家は6人家族。数学大好きおじいちゃん、お習字大好きおばあちゃん、主人、私、長女（小3）、次女（小1）で、幼稚園から徒歩5分の場所に住んでいます。主人は、庭いじりや魚釣りが好き。長女は漢字と踊りが好きで、劇団四季のキャッツに出ることを夢見る、マイペース系女子。次女は、とにかくエネルギーに溢れ、アイス屋さんになることを夢見て、日々アイスを食べる、全力系女子。そして、私は。ミシンで好きな服やバッグを作ったり、読書したりするのが好きです。群ようこさんや宮下奈都さん、小川糸さんの本が好き。時間があれば趣味の世界にどっぷり浸かりたい、SMAP ファン歴 26年、そんなオタクな私です。さて前田家は、今、家族みんなでタサン志麻さんにハマってます。テレビでも度々出ている、伝説の家政婦さん。寝る前にみんなでレシピ本をパラパラ。あれ食べたいこれ食べたいと、はしゃぐ日々。主人は休みの日にお菓子を作り、子どもたちの週末の日記の宿題は、お料理のことばかり。家族みんなでワイワイしながらキッチンにいたことが増えました。これからどうぞよろしくをお願いします。

(205) そして人生はつづく



我が家にはハタチの娘と高一の息子がおります。娘の小学校入学を機に越してきたので初雁っ子はたんぽぽ入園の息子のみ。2年保育にしたのは私が公園で砂遊びがしたかったのと（大人1人では出来ませんからね！）お弁当を作りがたかったからです。良くも悪くも芸術家肌の息子は、園生活に馴染めるのかという私の心配をよそに、元気に登園。先生方は息子の掘った落とし穴に毎回落ちて下さり、顔に落書きをして登園した時も、段ボールを着て降園した時も大変喜んで

下さいました。私も園生活を楽しむべくほぼ全てのサークルに参加。現役母たちとリコーダーアンサンブル「はつかりーな」を結成。役員やバザーもあり、ほぼ毎日幼稚園にいたと言う濃い時間を過ごしました。卒園式は東日本大震災の発生からわずか1週間後。不安を抱えて迎えた卒園礼拝でしたが、名誉園長の野澤先生が弾くパイプオルガンの音色に心癒されました。

それから10年。未だに初雁の話題になると決まって息子が「本当にたくさん遊んだなあ。」と言い、娘は「いいな～私も初雁が良かった。自分の子は初雁に入りたい。」と返します。初雁で過ごした時間が彼の根っことなっているのを日々実感しています。

（写真の作品は、現在高1の息子さんが、小5のときに描いた作品「夕方の教会」です。）

(206) おまのつぶやき



私には4つの宝物があります。その一つを紹介したいと思います。

15年前の川越祭り数日後、それはそれは可愛い男児が我が家に加わりました。産院でその児を胸に抱えた時は震えるほどの喜びと感激でいっぱいでした。皆、「こんな可愛い児は他にいないネ」と家じゅうが孫バカを発揮…。皆を夢中にさせてくれ、笑った、歯が出た、立った、歩いたなどなど、幸せな時間をもらいました。

両親が仕事を持っており、昼は、おまが子育て担当。哺乳ビンでミルクを飲ませ、オムツを換え、昼寝をさせ、30数年前の子育て感を取り戻し、孫の成長を毎日見つめられる幸せを日々過ごさせてもらいました。おばは朝晩の親子の送迎、降園後はドライブせんべいを用意し昼寝をするま

でドライブ…こんな繰り返しで現在にいたりしました。

身体は大きくなり、勝手なこと言い放題、少し甘やかし過ぎたかな？と思うこの頃です。それでも孫に弱い、おば、おま。やっぱり可愛い。

3月の中学卒業を迎え、4月からは高校へと進学が決まり、家じゅうでホッとしている現在です。4月からの新しいステップ、さてどうなることか気になるところではありますが、おまは大きな口を開け、

フォルティッシモ（f f）で 頑張れ!!

卒園記念品、卒園制作、ありがとうございました!!



すみれ組の保護者の皆様より、卒園記念品をいただきました。じょうろ、砂場セット、教職員全員へのTシャツです。少なくなってきた外遊びのおもちゃを見てプレゼントしてくださいました。教職員へのTシャツは保護者の方がデザインし、目立つ黄色のシャツに初雁色のエンジで色づけてくださいました。行事ごとに着用させていただきます！ 卒園制作は、すみれ組のお父さんを中心とした有志お父さんと、ゴミ箱入れとウサギ・鳥用道具入れを作ってくださいました。すみれ組の子どもたちが絵の具で色付けをした共同制作です。